

みみ

耳よい

メール

国立病院機構 相模原病院 広報誌

平成29年9月30日号

発行：国立病院機構 相模原病院

発行責任者：金田 悟郎

住所：相模原市南区桜台18-1

電話：042-742-8311 (代表)

F A X：042-742-5314

第75号



山口県長門市油谷津黄にある元乃隅稻荷神社（撮影：庶務係長 板垣 亘一）

第75号 目次

- ◆「相模原病院に就職して」…………… 2
 - ◆「古屋厚生労働副大臣（当時）が
相模原病院を視察されました」…………… 3
 - ◆「第1回循環器内科市民公開講座」…………… 4
 - ◆【国立病院総合医学会報告】
「悪性関節リウマチによる難治性下腿潰瘍に
IVIg療法が著効した一例」…………… 5
 - ◆「職員募集のご案内」…………… 7
- 連載** 近隣協力医療施設の紹介コーナー
座間市緑ヶ丘「広井内科医院」…………… 8



SAGAMIHARA
NATIONAL
HOSPITAL

私たちは患者の皆さまの
人権を尊重し、
十分な説明と同意に基づ
き親切で心のこもった医
療を提供します。

「相模原病院に就職して」



1階北病棟
看護師 丸山 徹

私は、新人看護師として1階北病棟で働いています。現場では、主に神経内科の患者さんを受け持たせていただいています。患者さんと思うようにコミュニケーションが取れず、悩むことがあります。しかし、思いを言葉で表出することが難しい患者さんだからこそ、表情や体の動きから苦痛を読み取り同じ目線に立って、一人ひとりとの関りを大切にしながら日々努力しています。

また、自分の要領の悪さや知識不足による失敗に落ち込むことも多くあります。そんな時、明るく声をかけてくれる師長さんや、いつも優しく支えてくれる実地指導者さんをはじめ病棟スタッフの方々の手厚いフォローもあり、毎日仕事にやりがいを感じさせていただいています。

まだまだ未熟ですが、患者様に寄り添った看護ができるよう先輩方の背中を見て多くの学びを得ながら、精一杯頑張っていきたいと思います。



手術室
看護師 滝沢 夏妃

私が看護師を目指したきっかけは中学生の頃、突然病気になり、通院で不安な日々を過ごしていた時、看護師さんが親身になって病気や今後について聞いてくださり安心して生活が送れるようになったことです。手術室に配属されて3ヵ月が経ち、初めの頃は自分の知識不足、技術の未熟さに何度も悩み、今でも覚える事や失敗などに悩むことは絶えません。しかし、師長さんや実地指導者さんをはじめ病棟スタッフの方々の指導や支えもあり、学びや経験が増えていく度に自分が成長できていると感じ、また、手術室という特殊な環境にも慣れることができました。手術室でも病棟と同じく患者さんの安全安楽を考えますが、不安や苦痛が大きい術前後や術中の身体への侵襲の軽減など手術室でしか行えない看護もあり日々学んでいます。まだまだ学ぶことが多くありますが、知識・経験を積み、私なりの患者さんの不安に寄り添える看護ができるよう頑張ります。



「古屋厚生労働副大臣（当時）が相模原病院を視察されました」

管理課長 櫛田 裕之

平成29年7月14日（金）、古屋厚生労働副大臣（当時）が相模原病院を視察されました。視察の目的は、アレルギー疾患対策を総合的に推進することを目的として「アレルギー疾患対策基本法」が、平成27年12月25日から施行されました。

また、アレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針が、平成29年3月21日に策定され、アレルギー疾患医療を提供する体制の確保に関する事項として、独立行政法人国立病院機構相模原病院等を中心とする医療機関の協力のもと、最新の科学的知見に基づく適切な医療に関する情報の提供、アレルギー疾患医療に関する研究並びに専門的な知識と技術を有する医療従事者の育成等を推進する。

アレルギー疾患に関する調査及び研究に関する事項として、独立行政法人国立病院機構相模原病院その他の専門的なアレルギー疾患医療の提供等を行う医療機関と臨床研究中核病院等関係機関との連携体制を整備し、速やかに質の高い臨床研究や治験を実施し、世界に先駆けた革新的なアレルギー疾患の予防、診断及び治療方



古屋厚生労働副大臣（当時）（左）と
谷口臨床研究センター長（右）

法の開発等を行うとともに、これらに資するアレルギー疾患の病態の解明等に向けた研究を推進するよう努めるよう明記されました。

そのことから、厚生労働省として、アレルギー疾患対策の拠点病院となった当院を視察されたものです。

当院としても、アレルギー疾患対策を総合的に推進するため、国に対し、財源支援を求めるとともに、特許取得、企業アドバイザーや寄付を広く受け入れるなど、基盤整備を進めて参ります。

今後、新外来棟の建築整備工事を控えておりますので、引き続き、地域医療支援病院並びに神奈川県がん診療連携指定病院として地域医療に貢献するとともに、臨床研究センターを中心とした臨床研究を推進して参りますので、よろしくお願いいたします。



中央が古屋厚生労働副大臣（当時）



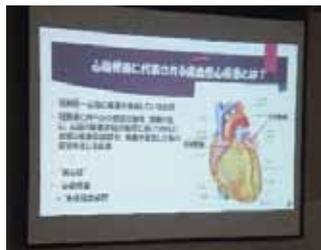
「第1回循環器内科市民公開講座」

循環器内科・脳神経外科病棟看護師長
梅田 正宗

平成29年6月24日(土)13時から16時に相模原南メディカルセンター大会議室で、第1回となる相模原病院循環器内科市民公開講座を開催致しました。

当院は、平成20年に発足した相模原市循環器救急輪番制度を支える病院の一つとして、時間外循環器救急疾患の診療に携わっており、心筋梗塞や心不全などにより救急車で搬送される方の受け入れを積極的に行っております。しかし、発病してからの対応だけでは、市民の皆様のご期待に添えないと日頃から感じておりました。

そこで今回の公開講座を開催する運びとなりました。テーマは「心筋梗塞で急死しないためには」、「タバコってどれだけ体に悪いの?!」、「体にいい生活習慣とは?」の3つでした。最近話題のテーマで、参加された91名の市民の方々は真剣に耳を傾けてメモをとっていらっしゃいました。



森田 有紀子
内科系診療部長

講演終了後には、アンケートの質問にお答えし日頃の疑問を解消するお手伝いをさせていただきました。「救急車を呼ぶタイミングは?」、「サプリメントは体にいいの?」、「ラーメンを食べたらだめ?」など毎日の生活に直結した内容のご質問が多く丁寧に説明させて頂きました。



高村武循環器内科医長



中川 奈津子 慢性心不全看護認定看護師



講演会風景

今回は初めての開催で至らぬ点もありましたが、病院の外で市民のみなさまと直接お話しが出来る貴重な機会となりました。ご意見などを伺いながら、市民のみなさまのご期待に添えるように、益々の地域医療の発展のために取り組んでいきたいと考えております。

ご参加いただきました市民のみなさま、お忙しい中ありがとうございました。

次回は12月9日を予定しております。



講演者と裏方スタッフ

子育て中の職員の子どもたちもお手伝いしてくれました

【国立病院総合医学会報告】

「悪性関節リウマチによる難治性下腿潰瘍にIVIg療法が著効した一例」

相模原病院リウマチ科

野木 真一、橋本 篤、松井 利浩

相模原病院臨床研究センターリウマチ性疾患研究部

當間 重人、小宮 明子

【コメント】

悪性関節リウマチは、関節リウマチに血管炎を合併した病態と考えられております。時に皮膚潰瘍を伴うこともあり、難治性で神経障害が出現するような重症化してしまうこともあります。そのようなケースにγグロブリン療法が効果を示す可能性が示唆されました。

【症例】 69歳 女性 **【主訴】** 両下腿潰瘍増悪

【既往歴】

シェーグレン症候群、掌蹠膿疱症子宮筋腫(全摘出術；1977年)、尿路感染症(1989年)、ぶどう膜炎、内耳性難聴(1998年)

【生活歴】 喫煙歴あり (詳細不明)

【家族歴】 特記すべき事項なし

【現病歴】

1967年、左手関節腫脹あり近医にて関節リウマチと診断。

2000年他院にて左足関節滑膜切除術施行。

2002年2月当院当科初診。2002年11月よりプレドニゾロン(PSL)4mg/日より開始し、2004年には7.5mg/日に増量。

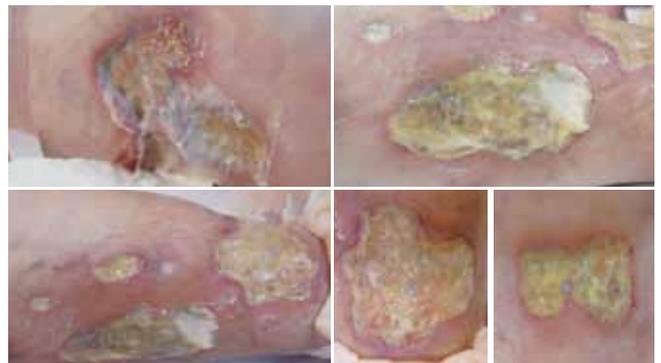
2005年2月左下腿に皮膚潰瘍出現し生検施行。フィブリノイド壊死ないが、血管に肉芽腫形成あり、血管炎後期の所見で悪性関節リウマチと診断。

2006年7月より白血球除去療法(L-CAP)5クール施行。完治しなかったが潰瘍は縮小。その後潰瘍悪化、PSL 30mg/日に増量後改善。その後、下腿潰瘍再び悪化、ステロイド大量療法に加え、シクロフォスファミド(CPA)、メトトレキサート(MTX)、アザリオプリン(AZP)を併用するも寛解維持ができない状態であった。2010年、下腿が改善しないこと。

2011年10月頃よりmPSL16mg/日、MTX10mg/週内服、皮膚科にてフィブラストスプレー®やゲーベンクリーム®外用で加療するも、さらに下腿潰瘍悪化、下垂足出現、下腿浮腫も増強。加療目的で2011年11月下旬入院となった。

【入院時現症】

発熱無し、**両下腿潰瘍あり**、**下腿浮腫あり**、創部周囲の**熱感あり**、**疼痛著明++** **両足背の痺れあり**、**右下腿は下垂足あり**



2011年11月下旬 (入院時)

【入院時検査所見】

尿蛋白 (-)	Alb 3.0 g/dl	C3 130.0 mg/dl
糖 (-)	AST 15 IU	C4 28.3 mg/dl
潜血 (-)	ALT 13 IU	CH50 56 mg/dl
ケト体 (-)	LDH 149 IU	TSH 1.873 mg/dl
赤血球 1-4/HPF	ALP 261 IU	Free T4 1.51 mg/dl
白血球 <1/HPF	γ-GTP 33 IU	抗核抗体 <40 倍
円柱 (-)	CK 38 IU	抗ds-DNA抗体 <10 U/ml
細菌 (-)	AMY 42	抗RNP抗体 陰性
RBC 321x10 ⁴ /μl	BUN 18.8	抗Sm抗体 陰性
Hb 8.2 g/dl	UA 3.6	MPO-ANCA <10 U/ml
Ht 26.8 %	Cr 0.41	PR3-ANCA <10 U/ml
MCV 83.5 fl	Na 137	抗CCP抗体 <0.6 IU/ml
Plt 57.0x10 ³ /μl	K 4.7	
WBC 14370 /μl	Cl 99	
neut 95.0 %	CRP 6.61	
ymph 3.0 %		
mono 1.0 %		
eosino 1.0 %		

悪性関節リウマチ (血管炎) による下腿潰瘍に大量γグロブリン療法(IVIg)が有効とする報告

Hautarzt. 2006 Dec;57(12):1106-10.

Successful therapy of a rheumatoid leg ulcer with intravenous immunoglobulins

Körper A, Lehnen M, Rietkötter J, Grabbe S, Dissemond J.

SourceKlinik und Poliklinik für Dermatologie, Venerologie und Allergologie,

Universitätsklinikum Essen, Hufelandstrasse 55, 45122 Essen.

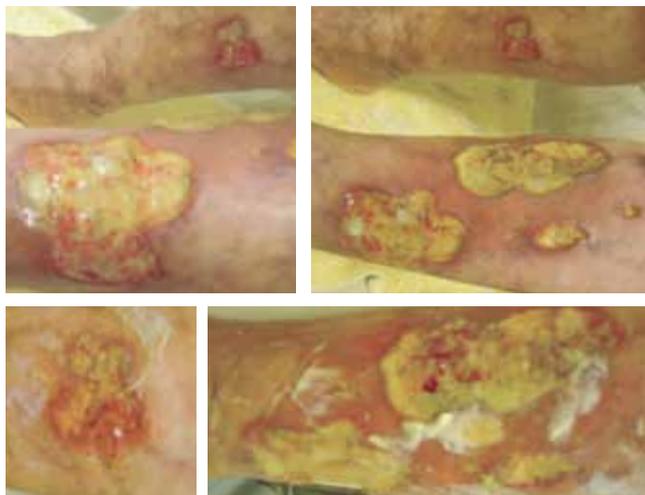
Intravenous immunoglobulin therapy in vasculitic ulcers: a case of polyarteritis nodosa.

Pego PM, Câmara IA, Andrade JP, Costa JM. Auto Immun Highlights. 2013 Feb 27;4(3):95-9

【入院後経過】

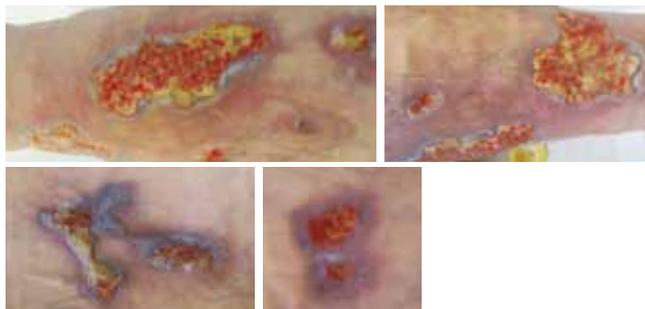
- ・2011年12月上旬：1回目IVIG 大量療法施行(400mg/kg x5日間)。毎日下肢洗浄、ゲーベッククリーム®+フィブラストスプレー®継続。
→肉芽盛り上がり良好であり、フィブラストスプレー®中止。
- ・2012年1月上旬：2回目IVIG 大量療法施行(400mg/kg x5日間)。
- ・2012年2月上旬：3回目IVIG 大量療法施行(400mg/kg x5日間)。
→下腿潰瘍改善のためmPSL 16mg/日→漸減→8mg/日へ減量、2012年2月上旬に退院。

2011年12月上旬 IVIG 一回目終了後



肉芽が著明に盛り上がってきたためフィブラストスプレー®中止

2012年1月上旬 IVIG 2回目投与前



両足背の痺れ改善。疼痛もほぼ消失。

2012年2月上旬IVIG 3回目終了直後



2012年5月中旬IVIG 3回目終了3か月後



潰瘍はほぼ略治。右下垂足も改善がみられた。

【考察】

悪性関節リウマチによる難治性下腿潰瘍に対して、ステロイド大量療法に加え、各種免疫抑制剤(CPA,MTX,AZP)、L-CAPなどを施行するも、非常に難治性で再燃を繰り返していたが、IVIG療法により潰瘍が著効し、約3か月でほぼ潰瘍が上皮化した。

【結語】

悪性関節リウマチによる難治性下腿潰瘍にIVIG療法が著効した一例を経験した。

職員募集のご案内

募集職種、人数	医師事務作業補助者 (非常勤職員) 若干名	業務技術員【看護助手】 (非常勤職員) 若干名	事務助手【病棟・外来クラーク業務】 (非常勤職員) 若干名
採用時期	随時～平成30年3月31日まで (雇用期間は、1事業年度です。 繰り返し採用できる回数は最初の採用を1回とし、原則3回までとなります。)	随時～平成30年3月31日まで (雇用期間は、1事業年度です。 繰り返し採用できる回数は最初の採用を1回とし、原則3回までとなります。)	随時～平成30年3月31日まで (雇用期間は、1事業年度です。 繰り返し採用できる回数は最初の採用を1回とし、原則3回までとなります。)
職務内容	病院勤務医の負担軽減を図るための 医師事務作業補助業務 1. 電子カルテにて医師の指示の下での文書作成業務 2. 文書作成システムにて医師の指示の下での文書作成業務 (いずれもパソコン使用) その他、医師の指示の下での電話対応、データ入力あり	外来・病棟での看護師業務の補助 (例) 患者搬送、物品清掃、シーツ交換、 体位交換(看護師と共同で実施)、 環境整備等	病棟および外来におけるクラーク業務 (例) 入院受入れ補助、基本情報入力、 書類作成補助、 患者・家族・外来者への対応等 (電話対応、窓口対応) ※初心者の方も親切に指導いたします。
勤務時間	① 8時30分～15時00分 ② 9時30分～16時00分 ③ 10時30分～17時00分 当初は①のみの勤務、いずれは①～③のシフトで勤務(休憩時間30分)。 週30時間勤務を基本とする。	8時30分～18時45分のうち 7時間45分(休憩時間60分) 1日7時間45分・週4日勤務 (週31時間) ※シフト制勤務のため、土日祝日の勤務あり。夜勤可能者歓迎!	8時30分～17時15分の間の7時間程度 (休憩時間は勤務時間に依りて 30～60分あり) 1週間当たり32時間以内の勤務
給与等	【時間給】 1,190円 【手当】 通勤手当 (通勤実態に応じて規定により支給) 採用後、所定の32時間以上の研修を受講し、次年度も継続して雇用を希望する者は、次年度の時間給を1,320円とする昇級制度有り。また、所定の32時間以上の研修を受講し、医師事務作業補助としての業務遂行に資する検定講座等を受講している者で、次年度も継続して雇用を希望する者は、次年度の時間給を1,400円とする昇級制度有り。	【時間給】 1,200円 【手当】 通勤手当 (通勤実態に応じて規定により支給)	【時間給】 1,190円 【手当】 通勤手当 (通勤実態に応じて規定により支給)
提出書類	履歴書、職務経歴書等	履歴書、職務経歴書等	履歴書、職務経歴書等

★3 職種共通事項

応募方法	月曜から金曜(8時30分～17時00分)の間に電話連絡の上、提出書類を郵送して下さい。 書類選考の後、面接日をご連絡いたします。
書類送付先	〒252-0392 神奈川県相模原市南区桜台18-1 独立行政法人 国立病院機構 相模原病院 管理課給与係長 中澤 TEL 042-742-8311 FAX 042-742-5314
その他	上記募集内容の詳細をお知りになりたい方は、上記書類送付先担当者までご連絡下さい。 応募書類は返送いたしませんので、ご了承下さい。 提出書類は封筒に「○○○○○○○ (←該当職種名) 応募書類」と朱書きしてお送り下さい。

連載

近隣協力医療施設の紹介コーナー



座間市 緑ヶ丘
「広井内科医院」

院長

廣井 喜一 先生

当院は、1975年1月に父 廣井基祥が座間市緑ヶ丘で開業しました。2011年11月より以前の場所から道一本はさんだ現在の場所に移転し、私が後を引き継いで診療を行っています。

私は日本大学の出身で、卒後第三内科（現在の消化器肝臓内科）の医局に入局、15年にわたり大学医局に所属、大学病院やその関連病院に勤務し、胃・大腸・肝臓・胆のう・膵臓疾患や糖尿病を中心とする幅広い一般内科診療、画像診断に携わってまいりました。

現在は内科・小児科を標榜しており、消化器疾患だけでなく、高血圧、糖尿病、脂質代謝異常症といった生活習慣病からインフルエンザ、風邪全般、小児健診、各種予防接種、各種がん検診と地域の方々の幅広いニーズに対応していきたいと考えております。

また当院ではレントゲン検査、心電図検査、ホルター心電図、肺機能検査、上下部内視鏡検査に加え、各種超音波検査を行うことができます。



相模原病院との病診連携では、CT、MRI、各種生理検査のオンライン予約システムに始まり、様々な科の先生方に救急、精査、加療とお世話になっています。いつも丁寧かつ迅速に対応していただき、感謝しております。本年2月から画像診断に関してはオンラインで結果が見れるようになり、より早く結果を知ることができるようになり、ますます便利になりました。

最後になりましたが、これまでの経験を生かし、正確な診断と丁寧でわかりやすい説明をモットーに、地域の皆様から頼りにされるホームドクターとして親切で心のこもった医療サービスを心がけてまいります。この座間の地で皆様の健康の手助けをできたらと 考えております。よろしくお願い致します。

【広井内科医院】

診療科：内科、消化器内科、小児科、肝臓内科

診療時間：

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
AM 9:00 ~ 12:00	○	○	○	○	○	○	—
PM 15:00 ~ 18:00	○	○	○	—	○	—	—

休診：木曜日午後、土曜日午後、日曜日、祝祭日

電話：046-254-8307

住所：〒252-0021 神奈川県座間市緑ヶ丘4-7-7
小田急相武台前駅より徒歩約10分

